

第1回岩国市総合計画検討会

議事概要

■ 開催日時・場所

令和3年10月25日 14時00分～
岩国市役所 3階 31・32会議室

■ 次 第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 座長選出
- 5 座長あいさつ
- 6 総合計画及び策定スケジュールについて
- 7 岩国市の現状分析について
- 8 その他
- 9 閉会

■ 議事概要

1 開会

2 市長挨拶

市 長	岩国市総合計画検討会にご出席いただき、感謝申し上げます。検討会は今日を含めて、通算6回の実施を考えている。社会の潮流も大きな変革がある中で、今回の総合計画は、令和5年から始まる10年間の計画を、令和3年、4年の2年間で定めていく。総合計画は市の最上位計画であり、今回で第3次の計画となる。これからの新しい岩国を創造していく上で、皆様の御協力をお願いしたい。それぞれの分野の意見を反映したいため、忌憚のない御意見をいただきたい。
-----	---

3 自己紹介

4 座長選出

5 座長あいさつ

座 長	これまでの経験などを踏まえて総合計画を策定していきたい。コロナを契機に、強い地方行政を推し進めていくことができるかは、課題である。一方で、デジタル化は大きな飛躍を遂げた。良い面も悪い面も両方出てきている。岩国に合った施策が創出できればと思う。最先端の情報なども共有しながら、他の市に負けない総合計画がつくれれば良いと思っている。よろしくお願いしたい。
-----	---

6 総合計画及び策定スケジュールについて

(事務局説明)

座 長	総合計画は、市の最上位計画なので、全ての分野を網羅していくことが重要である点と、10年後を見据えた計画であるので、10年後を想像しながら考えることがポイントになるかと思う。現状分析を踏まえた説明が後ほど事務局からあるが、全体のスケジュールとしては、これで良いか。
-----	---

座 長	特に質問がないようなので、現状分析の方に話を移す。
-----	---------------------------

7 岩国市の現状分析について

(事務局説明)

座 長	内容が多岐にわたるため、まずは資料について質問をいただき、その後、参加者の皆様から感じられていることをお聴きしたい。
-----	--

参 加 者	現在は、第2次岩国市総合計画の期間中だと認識している。コロナの影響で、本来であれば、第2次の期間中に完了する予定の事業が、第3次総合計画の期間にずれ込むこともあると思う。第3次は令和5年度から14年度までの計画という認識だが、場合によっては、第2次の積み残しの部分の解消も含める可能性があるかどうかを知りたい。
-------	---

事 務 局	御指摘のとおり、第2次総合計画の施策の検証を行っていく中で積み残しがあると思う。そのような施策は、やり方を変えて継続して取り組んだり、廃止したりすることになる。そういった点も整理・検証を行った上で、今後お示ししたい。
-------	--

参 加 者	あらゆる部分にDXが関わっている。国においてもデジタル庁が立ち上がった。行政のデジタル化も進めなければならないと思うが、その上では、人材育成が必要だと考える。どこの課が窓口になり外部との連携をとるかなど、計画はどうなっているか。
-------	--

事 務 局	計画策定に向けて動き出したばかり。今年4月に、デジタル推進班を設けたところである。計画は現在、素案を検討中である。来年度の早い時期には計画を策定する予定。デジタルを進める組織についてもこの計画の中で位置付けるものであり、CIOの位置付けやデジタルを進める態勢などを構築する予定である。
-------	--

参 加 者	今現在進行している道路網などの資料は、示していただけるのか。
-------	--------------------------------

事 務 局	南バイパスの延伸や岩国大竹道路など、必要な資料についてはお示ししていきたい。
-------	--

座 長	第2次総合計画の事後評価が必要という話、デジタル化の態勢の話、道路網整備の話をいただいた。重要な意見だと思うので、次回以降にお示しできる資料があればいただ
-----	---

	ければと思う。では、構想案を来年 1 月に議論するので、それまでに事務局にもらいたいこと等も含めて委員の皆様から意見をいただきたい。
参 加 者	人口減少が問題になっている。この対策が岩国市の発展には重要な要素。問題を掘り下げて協議していただきたい。
参 加 者	産業分野の状況をみると、従業者数は必ずしも減っていない。補助金や助成金を活用して努力されている結果だと思う。コロナ禍の後、みんなが飲んで遊んで食べられるという状況が岩国市でできることを目指して取り組むべきだと思う。
参 加 者	コロナ禍においては、観光分野は厳しい状況にある。山口県では、プレミアム旅行券の取組により少しずつ宿泊者数が増えてきている状況にある。こうした助成がないと宿泊利用の推進が困難な状況にある。市として、なにか策を考えていくことが必要である。また、これから先、観光分野で重要なのは、天候・気候・防災だと思う。日本は、震度 5 以上の地震が世界の 20% を占めており、災害被害額は 11.9% を占める。
参 加 者	近年、災害が多く発生している。ボランティアセンターにおいて手伝っていただく方には知識や教育が必要である。現在、様々な企業とも協定を締結して準備している。 また、地域には孤立した集落がたくさんある。そうした方々を D X により支援するため、民間の専門家に研究を依頼しながら、スマートフォンの提供・普及を行っている。
参 加 者	忘れてはならないのは、市民がいかに住みやすい生活ができるか、という市民目線での考えがないと、計画が市民生活と乖離していくように感じる。 教育においても I T 化が進み、教育環境が変わってきており、これに追いつく教員の技量が重要になる。また、計画を策定する際には、市と市民全体が、どんな市にしていこうかという大きな目標を掲げ、うまくマッチングさせることが重要だと思う。
参 加 者	日本は今後、やはり高齢者大国となっていく。言い換えれば高齢化先進国となる。いずれどの国もそうなるので、そういったノウハウを活かしていけると良いと思う。 2025 年、30 年、カーボンニュートラルでいうと 2050 年、そこからバックキャストで、未来の社会がどうなっていくかを見据えて考える必要がある。
参 加 者	D X が話題となるが、デジタルの技術を使って市民の困りごとを解決することが重要。どういった困りごとを解決していくのかを計画策定の中で議論できればと思う。デジタル技術は進展が早い。最近では、設計しても完成した段階ではもう遅く、つくって直してというのがトレンドとなりつつあるので、その辺りも意識しつつ、提供するサービスを考えていく必要があると思う。
参 加 者	人口流出が問題。より良いまちをつくる上で人口が減っていくことは、大きな課題だと思う。錦帯橋を中心とした観光問題は身近に感じており、新しい計画をつくるも、いつも絵に描いた餅になるのが残念。また、観光バスなどはたくさん来るが、全然、岩国市内にお金が落ちていない。良い計画を立てて、必ず実現できるようにしてほしい。
参 加 者	岩国について、色々考えたが、集まれる場所が必要だと思う。やはり生身の顔を見られる。元気が確認できる。若い人とお年寄りを結びつけられるような場所が必要だと思っている。そうした中で、地産地消も進むなど、他の分野にも広がっていく。市民

	が、いつでも思い立ったら集まれる環境といった視点をどこかに入れていただきたい。
参 加 者	現状分析に記載されている総括については、少し悲しい現状が記載されている。子育てする立場からすると、何十年か先に、子供を地元で生活させるのが不安になる。人口減少はするが、10 万人でも大丈夫といった根拠が必要だと思う。人口減少問題にどう対策したら良いかという視点も重要だが、減っても大丈夫という項目もあって良い。
参 加 者	岩国の文化・芸術のレベルは高いと考えている。ただ、文化・芸術を担う方々の高齢化が進行しており、免許返納などにより車を手放すと交通手段が少なくなってしまう。高齢者のためにという生産性がないと思う人もいるかもしれないが、高齢者は今後増えていくので、こうした問題への対応は大事だと思う。
参 加 者	外出などができないなど、コロナ禍により、今後は交流を活かしたまちづくりについて考え直す分岐点になっていると思う。各地域において自給自足により独立して暮らせることが必要になってくるのではないかな。自給自足できるような地域づくりを目指し、足りないものを外部から調達するという方向が良いと考えている。 また、各 10 年の将来予想が分かるようなデータがあれば良い。
参 加 者	デジタル化の話だが、業界で、「コンピュータリテラシー」という言葉がある。読み書きをする能力とも訳されるが、コンピュータを取り扱う能力とも捉えて良いと思う。過疎地は高齢化水準が高い。デジタル化は合理的、効率化があるが、こういったことに追いつけない方々も多くいる。追いつきにくい方々にも同じようにデジタル化の恩恵やサービスが受けられるようにしなければいけないと再認識した。
参 加 者	教育面については、I C T 化は避けられない状況にあるが、子供については、すぐに対応できる状況になるので問題ないと思う。むしろ、岩国に身近にある自然や国際教育などについて、もっと子供たちが触れやすい環境にしたいと思っている。 もう一つは、岩国市は転勤族が多い印象がある。岩国から離れてもまた戻りたいと思えるように、関係人口という概念も入れ、人口問題について考えていければと思う。
事 務 局	皆さんの思いなどを真剣に受け止めたい。引き続き、よろしく願いたい。
座 長	総合計画の策定にあたって 3 つ話をしたい。 1 つ目は、まちづくりは「人づくり」である。現場に寄り添って、人と共に生きていく、魂のこもった作業。市民の目線や人材育成は土台だと思う。 2 つ目は、10 年先を見通すということ。誰も 10 年先は分からないが、見えない中を一生懸命議論していきたいと思う。 3 つ目は、どんな岩国市にしたいか。というのを皆さんと一緒に考えていきたい。生活圏の中に必要な機能を入れてコミュニティをつくり、生きていく、働いていく、最低限の仕事ができる土台をつくるというのは重要。 「誰も取り残さない」という S D G s のキーワードがある。デジタルができない人を切り捨てるわけではない。そういう温かさをもったまちづくりができればと思う。 そのほか言い残したことはないか。
参 加 者	東京では生活できないという方がたくさんいるが、東京以外の自治体に生活場所を探している。そういった方を拾っていくことが、人口増加につながる。

座 長	新幹線が停まる、空港がある、交通の利便性がよく、瀬戸内気候で過ごしやすい。大きい災害もない。日本の中では稀有な場所だと思う。
参 加 者	脱炭素などは言葉の意味が解釈しにくく、10 年先の話なので、この計画の中には入れない方が良くとも考えている。おおむね誰が読んでも理解できるような言葉を使うのが重要だと思う。D Xという言葉もそうである。
座 長	脱炭素は、世界の目標であり、今後 10 年で終わりではなく、50 年、100 年かけてやらなければいけないものとなる。そういった重要キーワードは総合計画に載せておかないと、岩国市には、そういった重要なキーワードすら入っていないのかといったことになってしまう。そういったことにならないように配慮が必要である。ちなみに、脱炭素は 10 年間でこの言葉が廃れるようなことは、ほばないと言い切れる。 ただ、市民が理解できるようにするという事は重要だと思う。最終的には用語の意味が分かるような言葉を選んでいく必要がある。また次回以降も指摘をいただきたい。
参 加 者	岩国市の子供においては、高校まで岩国市で過ごし、その後は岩国市に帰ってこないのが現状。どうして帰ってこないのか。どうして岩国から出てしまったのか、魅力がないのかを真剣に考えないと人がいなくなってしまうと思う。
参 加 者	40 歳くらいが帰ってきたくなる時期でもあるが、帰ってきても働くところがない。「もう少ししたら帰ってきたら」と言えるようなまちにできたら良いと思う。

8 その他

事 務 局	意見用紙を用意している。メールアドレスを把握している方には、様式をメールでお送りする。御意見のある方は来月中にいただけたらと思う。 次回は、現状分析に加え、第 2 次総合計画の検証・評価や各種アンケートの分析等を踏まえ、岩国市の課題を整理した上で協議をお願いしたい。
参 加 者	次回検討会の開催日時について、今日出席できなかった方が出席できるような配慮が必要ではないか。
事 務 局	今回参加できなかった方には、事前に本日の会議の資料を直接持参し、説明をさせていただいた。次回以降も、参加できない方に対しては、丁寧な説明をさせていただく。次回以降の開催についても、参加しやすい日時の設定をさせていただく。

9 閉会

以上